

性別・年齢と魅力の考え方に関する調査

渡部 莉帆（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. 序論

私は女性アイドルが好きで、平成後半を生きてきたため「卒業」という概念が当たり前にあった。しかし、ふとなぜジャニーズなどの男性アイドルは年齢を重ねてもアイドルでいるのに、女性はアイドルを卒業し、タレントや女優など違う名に転向するのだろうかという疑問に思った。もちろん普遍的に見ると違う例もたくさんあるのだが、女性には若さが求められているのではないかと、そして反対に男性には人生の経験が求められているのでは、と考えたのが今回の調査を進める動機となった。

また、最近 youtube やニコニコ動画に活動する場を移し、活躍しているメンタリスト DaiGo さんは動画の中で、要約すると“男性は女性の魅力を判断する際、若さを最も重視している”という旨を話している（DaiGo, 2019）。

吉岡と桂田によると、「伝統的な性役割観や性役割的性格特性を強く持つ、またそういった事柄を強く支持する人ほど、ファッションに対しても積極的な意識を持つ傾向がある」という（吉岡 桂田、2017）。このことから、価値観が変わりつつある現在の大学生もまだ性別役割分業意識は残っていると残っていて、魅力の判断材料とどう結びつくのかを検証できるのではと考えた。そして“性別役割分業意識が強い人は、男性には男性らしさを・女性には女性らしさを求めているのではないか”という仮説を立てて進めた。

川名によると、「美的魅力や性的魅力や健康的魅力のような外見的魅力の他に、明るさや親しみやすさといった対人的魅力や、誠実さや有能さといった社会的魅力などの内面的魅力も推定する材料を提供する」と述べられている（川名, 2011）。また、「男性は、すべての年齢世代で、女性の性的美的魅力を最も重視する」や、30歳を過ぎると若さと健康魅力も重視するようになると言ったことが述べられている（川名, 2013）。この研究からも、男女間で重要視する魅力に違いがみられることを予想した。

この調査は性別・年齢をベースに、個人の価値観や他人との関わり、社会意識とどのように関連していくのかを調査する。

2. 調査経緯

4～6月	調査テーマ討論・文献収集
7～9月	予備調査討論・実施・集計
10～1月	本調査票作成・実施
1～2月	集計・分析・報告書作成

3. 予備調査

【調査時期】

2019年9月

【調査対象者】

文教大学湘南キャンパスの学生30名

【調査方法】

Googleフォームによるアンケート調査

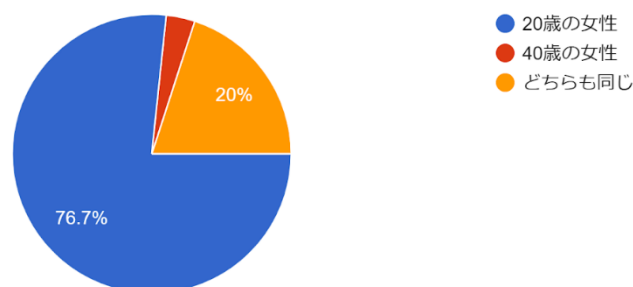
【質問項目】

性別・年齢による魅力度の違い、魅力を測定するときどの項目を重視するか、
自分自身の年齢に対する考え、フェイス項目

予備調査では、「性別・年齢と魅力の関係についての意識調査」の名目で調査を実施した。男性の魅力・女性の魅力の意識を調査した。

図表1 20歳の女性と40歳の女性、外見に関してどちらの方が魅力的に感じるか

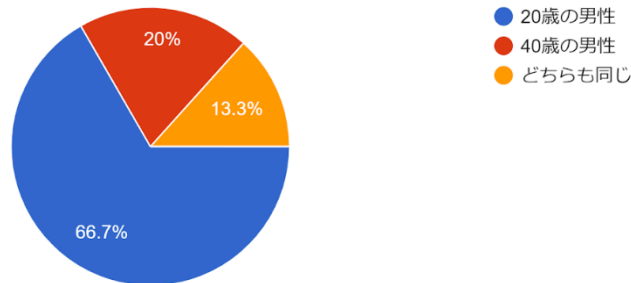
Q1. あなたは「20歳の女性」と「40歳の女性...外見に関してどちらのほうが魅力的に感じますか。
30件の回答



「20歳の女性」と「40歳の女性」に関して、外見ではどちらのほうが魅力的かという質問では「20歳の女性」が76.7% (23人)であったのに対し、「40歳の女性」は3.3% (1人)であった。どちらも同じと回答した人は20% (6人)であった。

図表 2 20歳の男性と40歳の男性、外見に関してどちらの方が魅力的に感じるか

Q6. あなたは「20歳の男性」と「40歳の男性...外見に関してどちらのほうが魅力的に感じますか。
30件の回答



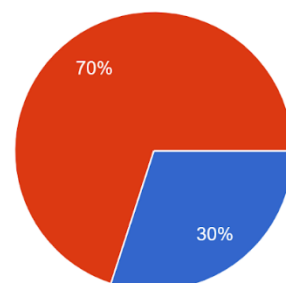
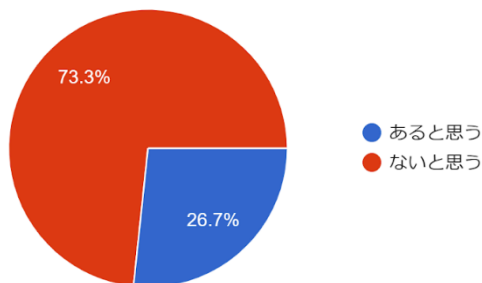
「20歳の男性」と「40歳の男性」に関して、外見ではどちらのほうが魅力的かという質問では「20歳の男性」は66.7%（20人）、「40歳の男性」は20%（6人）であった。どちらも同じと回答した人は13.3%（4人）であった。

外見は男女ともに20歳のほうが魅力的に感じる人が多い。また、40歳の人物に関しては、女性よりも男性のほうが魅力的に感じる人が多い。

図表 3 女性の魅力の全盛期はあると思うか **図表 4 男性の魅力の全盛期はあると思うか**

Q5-1. 女性の魅力の全盛期はあると思いますか。
30件の回答

Q10-1. 男性の魅力の全盛期はあると思いますか。
30件の回答



男女ともに「魅力の全盛期はあるか」という質問項目では、あまり差異は見られなかった。しかし、一定数はあると思っている人はいることが分かった。

予備調査では、自分が予想していたよりも男女による違いはみられないことがわかった。課題として、質問の仕方がストレートすぎて正直に答えると人間的モラルがない人になってしまう、誘導的な質問になっている可能性もあった。本調査では質問の仕方をもう少し工夫して調査することにした。また、社会的な要因とどうかかわっているのかも調査する必要があるとわかった。

また、外見の魅力を判断するときは何を重視するか、内面の魅力を判断するときは何を重視するかについても質問し、項目の選定を行った。

4. 本調査

4-1 調査研究方法

・調査テーマ

大学生の性別・年齢に関する調査

・調査時期

2019年12月～2020年1月

・調査方法

紙面による自記式アンケートの集合調査

・主な調査項目

【調査対象者の特性】

- ・フェイス項目
- ・他人との接触頻度
 - ① 1日に他人と何人接触するか
 - ② 1日の中でどの年代と何人接触するか

【性別と年齢による魅力度の調査】

①外見の魅力の判断材料

- (a) 各年代・性別ごと（20代女性・40代女性・20代男性・40代男性）
- (b) 男女別
- (c) 年代別

②内面の魅力の判断材料

- (a) 各年代・性別ごと（20代女性・40代女性・20代男性・40代男性）
- (b) 男女別
- (c) 年代別

③魅力のピーク

【意識】

- ・性別役割分業意識
- ・社会問題（①人口減少問題②ハラスメント問題③所得格差問題）についての意識

【フェイス項目】

- ・所属学部・学年・性別

・調査対象者

文教大学湘南キャンパスの学生 150 名, 有効回答数 149 票, 有効回答率 (99.3%)

属性: 男性 62 人 (45.3%)、女性 74 人 (54.0%)、その他 1 人 (0.7%)。

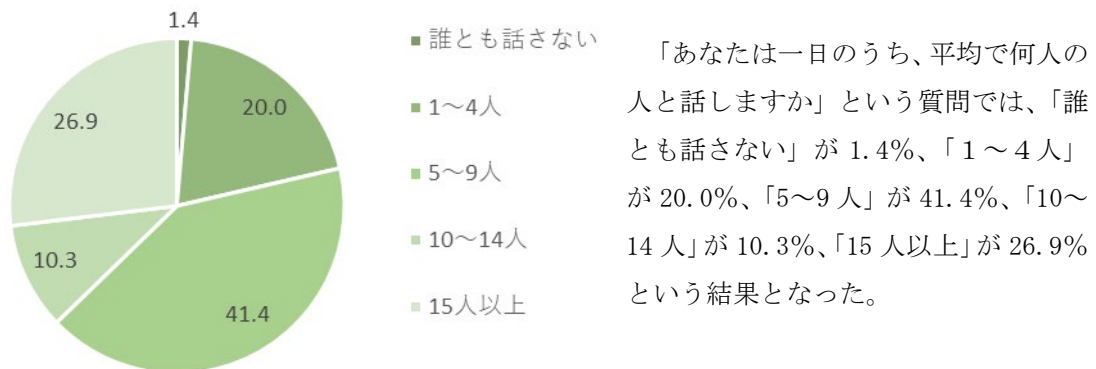
学部: 情報学部 46 人 (33.6%)、国際学部 51 人 (37.2%)、健康栄養学部 2 人 (1.5%)、経営学部 38 人 (27.7%)。

学年: 1 年 42 人 (30.7%)、2 年 20 人 (14.6%)、3 年 66 人 (48.2%)、4 年 9 人 (6.6%)。

	度数	%		度数	%		度数	%
情報	46	33.6	1年	42	30.7	男性	62	45.3
国際	51	37.2	2年	20	14.6	女性	74	54.0
健康栄養	2	1.5	3年	66	48.2	その他	1	.7
経営	38	27.7	4年	9	6.6	合計	137	100.0
合計	137	100.0	合計	137	100.0			

① 1 日に他人と何人接触するか

図表 5 一日の平均会話人数



② 1 日の中でどの年代と何人接触するか

図表 6 大学生が一日に話す年代ごとの平均会話人数

年代	平均値
~18歳	2.12
19~22歳	6.31
23~29歳	2.15
30~39歳	1.79
40~49歳	2.03
50~59歳	1.49
60歳~	.97

大学生以下 (~18 歳)、同年代の大学生 (19~22 歳)、社会人以上の 20 代 (23~29 歳)、30 代、40 代、50 代、60 歳以上にわけて、年齢別に一日に何人と話すかを聞いた。同年代の人とは一日に平均 6.31 人と話し、60 歳以上以外の同年代以外の人とは 2 人前後と話し、60 歳以上の人とは平均で見ると 1 人とも話していないという結果となった。

図表 7 大学生が一日に話す年代ごとの会話人数

	~18歳	19~22歳	23~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳~
0	73	11	73	79	67	80	108
1	26	11	22	28	29	24	16
2	18	6	16	16	21	20	11
3	5	18	8	3	9	8	3
4	2	11	3	1	1	1	1
5	7	32	11	6	4	3	1
6	1	6	1	0	1	0	0
7	1	7	0	0	0	0	0
8	0	4	1	0	0	0	0
9	1	2	0	0	0	0	0
10	7	19	3	0	8	8	4
11	0	0	0	0	1	2	0
12	1	0	0	0	0	0	0
15	1	4	0	1	1	0	1
16	0	1	0	0	0	0	0
18	0	1	0	0	0	0	0
20	2	5	2	4	3	0	0
30	1	3	1	0	0	0	1
欠損値	3	8	5	5	4	3	3
合計	149	149	149	149	149	149	149

同年代以外（~18歳、23~29歳、30~39歳、40~49歳、50~59歳、60歳~）の人と接触するのは0人と言う人が半数以上であった。当初、他人との接触回数が少ない人は性別役割分業意識が高く、接触回数が多い人は性別役割分業意識が低いという仮定していた。しかし、他人との接触回数が多い人と少ない人とで二分しようとしていたが、ふさわしくないデータであると判断した。

4-2. 本調査の結果と考察

【性別・年齢ごとの魅力判断材料】

Q1～Q4は、年齢と性別によって回答に差異が出るのかという理由で、①20代女性②40代女性③20代男性④40代男性の4パターンの質問紙に分けて、それぞれの魅力度について質問した。予備調査では誘導的な質問だった可能性があるという課題があった。そのため、誘導的ではなく無意識に感じている性別・年齢による魅力の違いを聞き出せる形にした。

①外見の魅力の判断材料

外見の魅力を判断する際、「美しい」「かわいい」「格好良い」「清潔だ」「若々しい」「色っぽい」「肌質が綺麗だ」「肌が白い」「身長が高い」「身長が低い」「スタイルが良い」「痩せている」「髪型が好みだ」「服装・アクセサリーのセンスが良い」の14項目をどれほど重視するか、5段階評価で回答してもらった。項目は、川名の研究（川名、2011a 2013b）を参考にした。

図表8 外見の魅力判断の因子分析

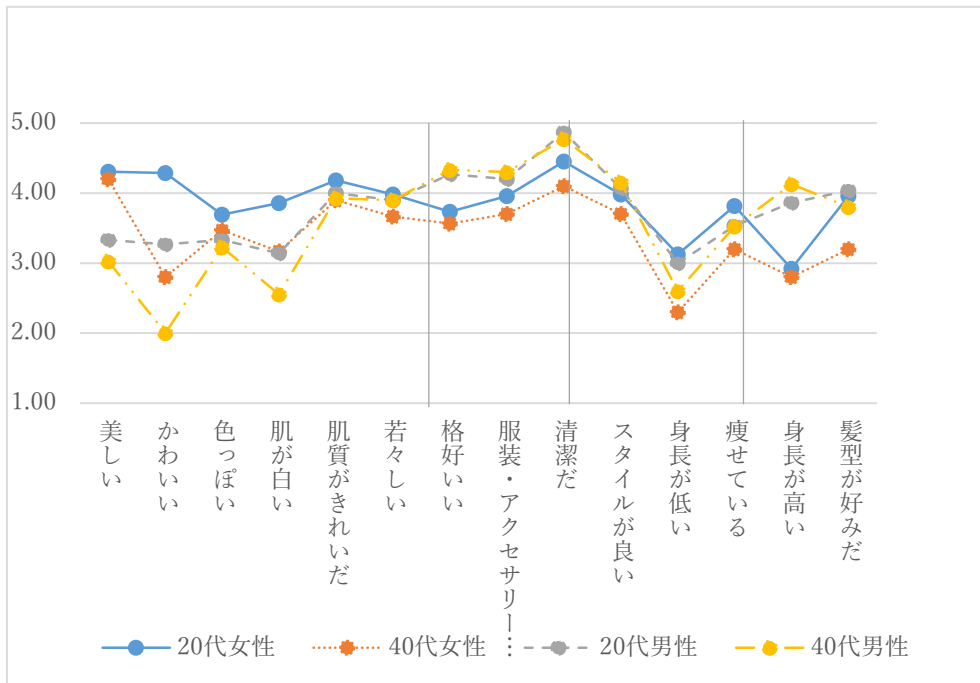
	因子1 顔・雰囲気重視	因子2 身なり重視	因子3 スタイル重視	因子4 髪型重視
美しい	.765	.005	-.074	-.045
かわいい	.645	-.350	.163	.243
色っぽい	.635	.277	.013	-.025
肌が白い	.558	-.110	.349	.154
肌質がきれい	.476	.255	.203	.095
若々しい	.289	.202	.278	-.039
格好いい	.026	.550	.012	.064
服装・アクセサリーのセンスが良い	.037	.529	.054	.263
清潔だ	.082	.468	.125	.030
スタイルが良い	.051	.465	.426	.355
身長が低い	.115	-.070	.670	.060
痩せている	.198	.182	.492	.095
身長が高い	-.261	.354	.477	.036
髪型が好みだ	.103	.325	.135	.930

バリマックス回転を用い最尤法による因子分析を行った。因子分析の結果、4つの分析が抽出された（表3）。第一因子には「美しい」「かわいい」「色っぽい」「肌が白い」「肌質がきれい」「若々しい」という「顔・雰囲気重視」因子、第二因子には「格好いい」「服装・アクセサリーのセンスが良い」「清潔だ」「スタイルが良い」という「身なり重視」因子、第三因子には「身長が低い」「痩せている」「身長が高い」という「スタイル重視」因子、第四因子には「髪型が好みだ」という「髪型重視」因子が抽出された。

よって因子1「顔・雰囲気重視」・因子2「身なり重視」・因子3「スタイル重視」因子4「髪型重視」と因子ごとに並べた。

(a) 各年代・性別ごと（20代女性・40代女性・20代男性・40代男性）

図表9 各年代・性別による外見の魅力の各項目の重視度



図表10 各年代・性別による外見の魅力の各項目の重視度

		20代女性	40代女性	20代男性	40代男性	F 値	自由度	有意確率
因子1	美しい	4.31	4.20	3.33	3.03	17.472	147	p<0.05
	かわいい	4.29	2.80	3.27	2.00	39.591	148	p<0.05
	色っぽい	3.69	3.47	3.33	3.23	1.527	148	p<0.05
	肌が白い	3.86	3.17	3.14	2.55	12.623	145	p<0.05
	肌質がきれいだ	4.18	3.90	4.00	3.93	0.958	148	N.S
	若々しい	3.98	3.67	3.90	3.90	0.693	146	N.S
因子2	格好いい	3.73	3.57	4.27	4.33	6.507	147	p<0.05
	服装・アクセサリーのセンスが良い	3.96	3.70	4.20	4.30	2.751	148	p<0.05
	清潔だ	4.45	4.10	4.87	4.77	9.287	147	p<0.05
	スタイルが良い	3.98	3.70	4.07	4.15	1.910	147	N.S
因子3	身長が低い	3.13	2.30	3.00	2.60	3.981	147	p<0.05
	痩せている	3.82	3.20	3.53	3.53	3.224	148	p<0.05
	身長が高い	2.92	2.80	3.86	4.13	17.138	147	p<0.05
因子4	髪型が好みだ	3.96	3.20	4.03	3.80	5.245	147	p<0.05

因子分析をもとに各平均値を算出した。有意確率がみられたのは「美しい」「かわいい」「色っぽい」「肌が白い」「格好いい」「服装・アクセサリーのセンスが良い」「清潔だ」「身長が低い」「痩せている」「身長が高い」「髪型が好みだ」の11項目であった。

(b) 男女別

図表 11 男女別による外見の魅力の各項目の重視度

		女性	男性	F 値	自由度	有意確率
因子 1	美しい	4.27	3.16	10.325	146	p<0.05
	かわいい	3.72	2.54	0.259	147	p<0.05
	色っぽい	3.61	3.27	5.521	147	N.S
	肌が白い	3.59	2.81	46.311	144	p<0.05
	肌質がきれいだ	4.08	3.96	1.515	147	N.S
	若々しい	3.86	3.90	0.040	145	N.S
因子 2	格好いい	3.67	4.30	1.159	146	p<0.05
	服装・アクセサリーのセンスが良い	3.86	4.26	0.256	147	p<0.05
	清潔だ	4.32	4.81	0.597	146	p<0.05
	スタイルが良い	3.87	4.12	5.617	146	N.S
因子 3	身長が低い	2.81	2.77	1.183	146	N.S
	痩せている	3.58	3.53	1.012	147	N.S
	身長が高い	2.87	4.01	5.419	146	p<0.05
因子 4	髪型が好みだ	3.67	3.90	0.033	146	N.S

男性と女性で魅力を算出した。有意差がみられたのは「美しい」「かわいい」「肌が白い」「格好いい」「服装・アクセサリーのセンスが良い」「清潔だ」「身長が高い」であった。

「美しい」「かわいい」「肌が白い」は特に女性の魅力を判断する際に重視されており、「格好いい」「服装・アクセサリーのセンスが良い」「清潔だ」「身長が高い」は特に男性の魅力を判断する際に重視されていることが分かった。

(c) 年代別

図表 12 年代別による外見の魅力の各項目の重視度

		20代	40代	F 値	自由度	有意確率
因子 1	美しい	3.94	3.54	11.688	146	p<0.05
	かわいい	3.90	2.34	0.934	147	p<0.05
	色っぽい	3.56	3.33	0.042	147	N.S
	肌が白い	3.59	2.82	1.463	144	p<0.05
	肌質がきれい	4.11	3.91	1.129	147	N.S
	若々しい	3.95	3.80	2.004	145	N.S
因子 2	格好いい	3.94	4.00	1.543	146	N.S
	服装・アクセサリーのセンスが良い	4.05	4.04	2.111	147	N.S
	清潔だ	4.61	4.48	0.041	146	N.S
	スタイルが良い	4.01	3.96	1.069	146	N.S
因子 3	身長が低い	3.08	2.47	0.021	146	p<0.05
	痩せている	3.71	3.39	1.401	147	p<0.05
	身長が高い	3.27	3.56	4.293	146	N.S
因子 4	髪型が好みだ	3.99	3.54	1.165	146	p<0.05

20代と40代で平均値を算出した。有意確率がみられたのは「美しい」「かわいい」「肌が白い」「身長が低い」「痩せている」「髪型が好みだ」であった。

「美しい」「かわいい」「肌が白い」「痩せている」「髪型が好みだ」は20代の魅力を判断する際に重視されており、「身長が低い」は40代の魅力を判断する際に重視されていることがわかった。

20代女性・40代女性・20代男性・40代男性、男女別、年代別の3つで共に有意差がみられたのは「美しい」「かわいい」「肌が白い」であり、これらの項目は20代の特に女性特有の魅力であると考えられる。また、「肌質がきれい」「若々しい」「スタイルが良い」は共に有意差がみられず、どの年代・性別でも魅力の判断をする際に重視されていると考えられる。仮説では、女性は「若々しい」が魅力を判断する際に重視されると考えていたので予想外の結果となった。

②内面の魅力の判断材料

内面の魅力を判断する際、「明るい」「素直である」「親しみやすい」「優しい」「感情が豊かだ」「誠実だ」「頭が良い」「面白い」「気遣いができる」「努力家だ」「自分らしさがある」「自信がある」「話し上手だ」「聞き上手だ」「言葉遣いが良い」の15項目をどれほど重視するか、5段階評価で回答してもらった。判断材料となる項目は外見の魅力と同様、項目は、川名の研究（川名、2011a 2011b）を参考にした。加えて、内面の魅力の項目では伊藤愛・伊藤裕子の研究（伊藤愛・伊藤裕子、2009）を参考にした。

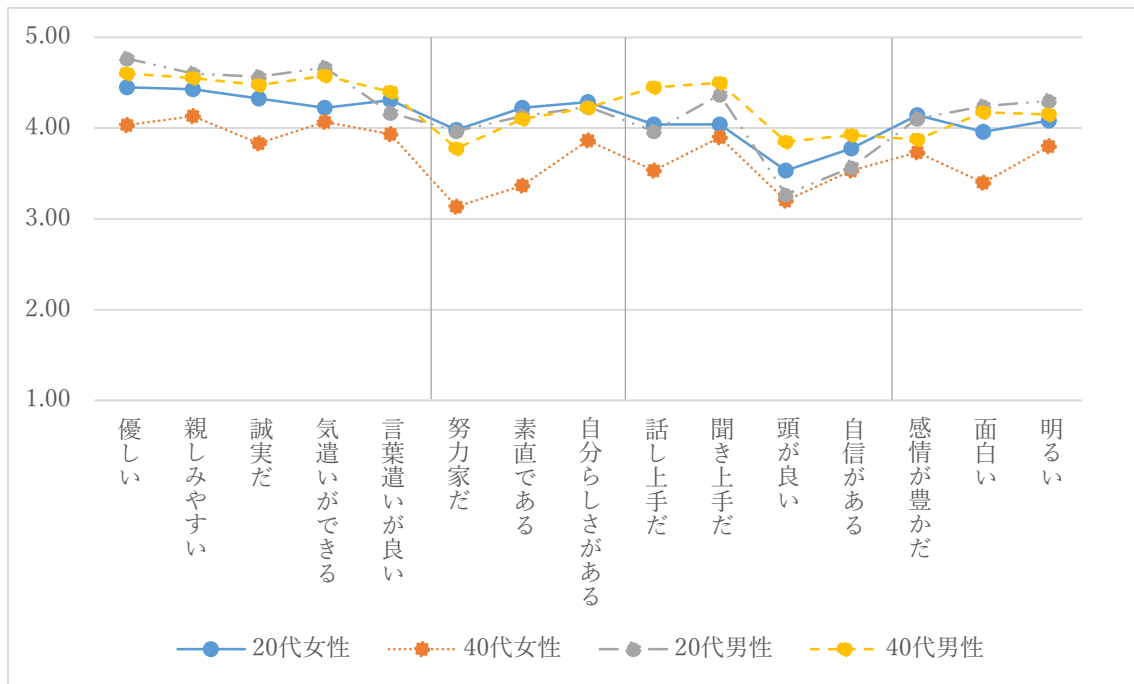
図表 13 内面の魅力判断の因子分析

	因子1 優しさ重視	因子2 まっすぐさ重視	因子3 インテリ重視	因子4 楽しさ重視
優しい	.872	.126	.026	.305
親しみやすい	.650	.099	.250	.403
誠実だ	.529	.521	.048	.333
気遣いができる	.490	.457	.195	.103
言葉遣いが良い	.401	.384	.243	-.092
努力家である	.053	.611	.326	.163
素直である	.323	.547	.109	.344
自分らしさがある	.199	.512	.128	.166
話し上手だ	.234	.130	.786	.138
聞き上手だ	.509	.345	.581	-.072
頭が良い	.027	.188	.450	.207
自信がある	-.021	.419	.449	.083
感情が豊かだ	.174	.241	.114	.724
面白い	.184	.072	.485	.495
明るい	.318	.187	.218	.398

外見の項目と同様にバリマックス回転を用い最尤法による因子分析を行った。因子分析の結果、4つの分析が抽出された（表7）。第一因子には「優しい」「親しみやすい」「誠実だ」「気遣いができる」「言葉遣いが良い」という「優しさ重視」因子、第二因子には「努力家である」「素直である」「自分らしさがある」という「まっすぐさ重視」因子、第三因子には「話し上手だ」「聞き上手だ」「頭が良い」「自信がある」という「インテリ重視」因子、第四因子には「感情が豊かだ」「面白い」「明るい」という「楽しさ重視」因子が抽出された。

(a) 各年代・性別ごと（20代女性・40代女性・20代男性・40代男性）

図表 14 各年代・性別による内面の魅力の各項目の重視度



図表 15 各年代・性別による内面の魅力の各項目の重視度

		20代女性	40代女性	20代男性	40代男性	F 値	自由度	有意確率
因子 1	優しい	4.45	4.03	4.77	4.60	5.912	148	p<0.05
	親しみやすい	4.43	4.13	4.60	4.55	2.509	148	p<0.05
	誠実だ	4.33	3.83	4.57	4.48	5.954	148	p<0.05
	気遣いができる	4.22	4.07	4.67	4.58	5.697	148	p<0.05
	言葉遣いが良い	4.31	3.93	4.17	4.40	2.029	148	N.S
因子 2	努力家だ	3.98	3.13	3.97	3.78	5.547	148	p<0.05
	素直である	4.22	3.37	4.13	4.10	7.001	148	p<0.05
	自分らしさがある	4.29	3.86	4.23	4.23	1.622	147	N.S
因子 3	話し上手だ	4.04	3.53	3.97	4.45	6.633	148	p<0.05
	聞き上手だ	4.04	3.90	4.37	4.50	5.501	148	p<0.05
	頭が良い	3.53	3.20	3.27	3.85	2.875	148	p<0.05
	自信がある	3.78	3.53	3.57	3.93	1.184	148	N.S
因子 4	感情が豊かだ	4.14	3.73	4.10	3.88	1.734	147	N.S
	面白い	3.96	3.40	4.24	4.18	6.365	147	p<0.05
	明るい	4.08	3.80	4.30	4.15	2.180	147	p<0.05

因子分析をもとに各平均値を算出した。有意確率がみられたのは「優しい」「親しみやすい」「誠実だ」「気遣いができる」「言葉遣いが良い」「努力家だ」「素直である」「話し上手だ」「聞き上手だ」「頭が良い」「面白い」「明るい」となった。

(b) 男女別

図表 16 男女別による外見の魅力の各項目の重視度

		女性	男性	F 値	自由度	有意確率
因子1	優しい	4.29	4.67	12.954	147	p<0.05
	親しみやすい	4.32	4.57	6.518	147	p<0.05
	誠実だ	4.14	4.51	2.895	147	p<0.05
	気遣いができる	4.16	4.61	11.961	147	p<0.05
	言葉遣いが良い	4.16	4.30	0.304	147	N.S
因子2	努力家だ	3.66	3.86	0.005	147	N.S
	素直である	3.90	4.11	1.528	147	N.S
	自分らしさがある	4.13	4.23	0.020	146	N.S
因子3	話し上手だ	3.85	4.24	0.014	147	p<0.05
	聞き上手だ	3.99	4.44	0.172	147	p<0.05
	頭が良い	3.41	3.60	0.046	147	N.S
	自信がある	3.68	3.77	3.586	147	N.S
因子4	感情が豊かだ	3.99	3.97	3.372	146	N.S
	面白い	3.75	4.20	2.648	146	p<0.05
	明るい	3.97	4.21	0.388	146	N.S

有意差がみられたのは「優しい」「親しみやすい」「誠実だ」「気遣いができる」「努力家だ」「素直である」「話し上手だ」「聞き上手だ」「頭が良い」「面白い」「明るい」であった。すべての項目で男性の方が重要視されている。

(c) 年代別

図表 17 年代別による外見の魅力の各項目の重視度

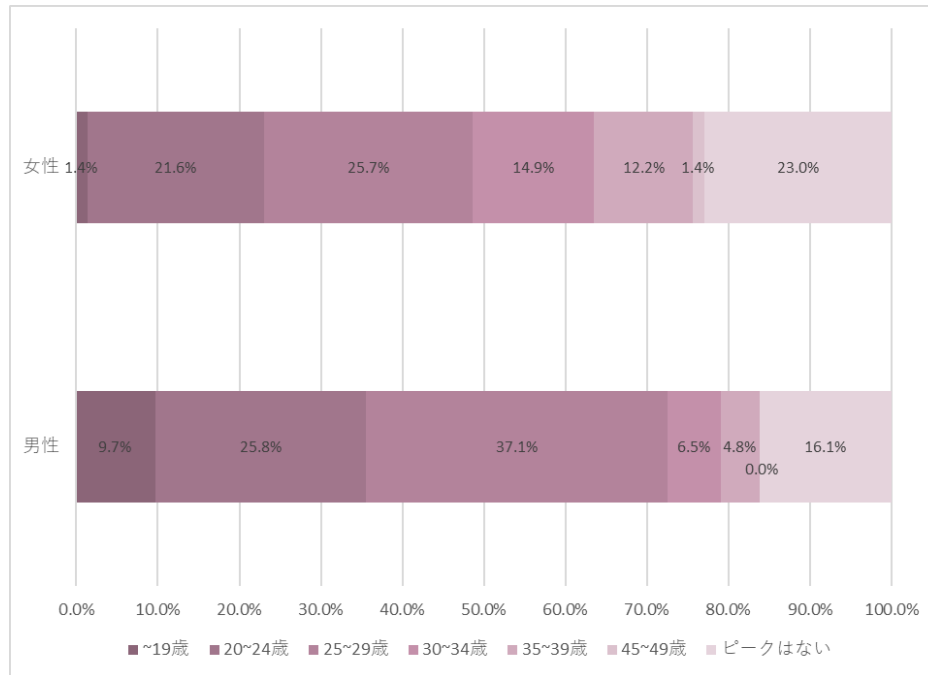
		20代	40代	F 値	自由度	有意確率
因子1	優しい	4.57	4.36	0.891	147	N.S
	親しみやすい	4.49	4.37	0.439	147	N.S
	誠実だ	4.42	4.20	0.900	147	N.S
	気遣いができる	4.39	4.36	1.004	147	N.S
	言葉遣いが良い	4.25	4.20	1.258	147	N.S
因子2	努力家だ	3.97	3.50	4.132	147	p<0.05
	素直である	4.19	3.79	6.703	147	p<0.05
	自分らしさがある	4.27	4.07	0.294	146	N.S
因子3	話し上手だ	4.01	4.06	0.000	147	N.S
	聞き上手だ	4.16	4.24	0.616	147	N.S
	頭が良い	3.43	3.57	0.247	147	N.S
	自信がある	3.70	3.76	0.013	147	N.S
因子4	感情が豊かだ	4.13	3.81	0.506	146	p<0.05
	面白い	4.06	3.84	1.651	146	N.S
	明るい	4.17	4.00	0.391	146	N.S

有意差がみられたのは「努力家だ」「素直である」「感情が豊かだ」であった。全ての項目で20代の魅力として重視されており、内面の若々しさが20代の魅力であると読み取れる結果となった。

20代女性・40代女性・20代男性・40代男性、男女別、年代別の3つで共に有意差がみられた項目は無かった。共に有意差がみられなかったのは「言葉遣いが良い」「自分らしさがある」「自信がある」の3項目であり、これらはどの年代・性別でも魅力の判断をする際に重視されていると考えられる。

③魅力のピーク（年齢）は何歳か

図表 18 魅力のピークは何歳か



19歳以下が男性のピークだと考える人は0人であった。20代がピークだと考える人は32%、30代がピークだと考える人は37%、また、「ピークはない」と考える人は28%となった。

20代までが女性のピークだと考える人が75%という結果となった。40歳以上がピークだと考える人は0人であった。男性のピークと女性のピークについては大きな差が見られた。

年齢と性別による魅力の判断材料は、外見では差が見られたが、内面ではあまり差が見られなかった。しかし、「魅力のピークは何歳だと思うか」という質問では大きな差が見られた。

【意識】

・性別役割分業意識

性別役割分業意識とは男性は仕事、女性は家庭に入るべきという考え方のことであり、近年その考え方は崩れつつある。性別役割分業意識を持っている人と持っていない人とは性別・年齢についての魅力についても考え方が変わるのではと仮定した。

まず、性別役割分業意識がある質問（タイプA）と性別役割分業意識が無い質問（タイプB）に大まかに2つに分け「非常にそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の4段階で聞いた。項目は鈴木の研究（鈴木、1994）を参考にした。

図表 19 性別役割分業意識の分類

	因子1 亭主関白	因子2 女性進出	因子3 子育て重視	因子4 両立は困難	因子5 子ども平等
女性のいるべきところは家庭であり、男性のいるべきところは職場である。	.894	-.122	.214	.099	-.057
結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである	.786	-.033	.218	.121	-.200
女性は家事や育児をしなければならないから、パートタイムで働いた方がよい	.715	.032	.248	.180	-.075
経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい	.558	-.264	.058	.113	-.001
結婚したら、子どもを産んで育てるのが当然である。	.520	-.072	.137	.511	.037
プロポーズはやはり男性からした方がよい	.336	.191	.125	.049	.276
女性が社会に出て働けば、社会の進歩や発展にとってもプラスになることが多い	-.077	.738	-.036	.105	.361
女性も、仕事を通して自己実現や人間としての成長を目指すべきだ。	-.032	.665	-.114	-.042	.419
従来男性の仕事と考えられてきた職業に今後は女性もどんどん進出するべきだ	-.019	.640	-.003	-.118	.014
家庭や社会で、男女平等の原理と義務をもっと強調すべきだ。	.016	.633	.019	.079	-.166
女性は子どもが生まれても、仕事を続けた方がよい。	.046	.566	.148	.045	-.037
家事は男女の共同作業になるべきである	.026	.563	-.008	-.247	.231
女性の人生において、妻であり母であることも大事だが、 仕事をするのもそれと同じくらい重要である	-.157	.508	.256	-.046	.172
将来は女性が男性と完全に平等の仕事内容、賃金、昇進を得られることが望ましい	-.042	.456	-.152	.049	-.004
女性であるという理由だけで仕事上のチャンスを奪ってはいけない	-.249	.442	-.234	-.119	.305
男女の関係は対等であるべきだ	-.222	.431	-.276	-.099	.018
家事や育児をしなければならないから、 女性はあまりに責任の重い、競争の激しい仕事をしない方がよい。	.376	-.023	.797	.158	-.176
女性が、社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのが難しくなるから、 そういう職業を持たない方がよい	.420	.019	.650	.176	-.082
子育ては女性にとって一番大切なキャリアである	.301	-.010	.459	.368	.359
主婦が働くことと夫をないがしろにしがちで、夫婦関係にひびが入りやすい	.440	.070	.273	.610	-.257
主婦が仕事を持つと、家庭の負担が重くなるのでよくない	.330	-.118	.470	.547	-.192
子どもには、男女の区別なく教育の機会を平等に与えるべきだ	-.151	.075	-.125	-.129	.358

22 項目の平均点を算出し、同様にバリマックス回転を用い最尤法による因子分析を行った。因子分析の結果、5つの分析が抽出された(表10)。第一因子には男性が家庭を引っ張っていくべきだという「亭主関白」因子、第二因子には女性と男性が平等であるべき・女性も社会で活躍すべきだという「女性進出」因子、第三因子には女性は育児を優先するべきだという「子育て重視」因子、第四因子には主婦は子育てと仕事の両立することは好ましくないという「両立は困難」因子、第五因子には「子どもには、男女の区別なく教育の機会を平等に与えるべきだ」という「子ども平等」因子が抽出された。

この中で第一因子「亭主関白」、第二因子「女性進出」の二つの因子を代表に、「亭主関白」因子の項目を高くつけた人と低くつけた人、「女性進出」因子の項目を高くつけた人と低くつけた人とに分けた。性別役割分業意識が高い人と低い人は、魅力のピークの有無についてどう考えているかを調査した。

図表 20 亭主関白意識が高い人と低い人別 ピーク有無

	1. ~19歳	2. 20~24歳	3. 25~29歳	4. 30~34歳	5. 35~39歳	7. 50~59歳	9. ピークはない	合計
亭主関白高	10.9%	23.4%	35.9%	9.4%	3.1%	0.0%	17.2%	100.0%
亭主関白低	1.2%	23.5%	27.2%	12.3%	12.3%	1.2%	22.2%	100.0%
合計	5.5%	23.4%	31.0%	11.0%	8.3%	0.7%	20.0%	100.0%

亭主関白因子の項目を高くつけた人ほど魅力のピークは若く、低くつけた人は「ピークはない」につける割合が多かった。

図表 21 女性進出意識が高い人と低い人別 ピーク有無

	1. ~19歳	2. 20~24歳	3. 25~29歳	4. 30~34歳	5. 35~39歳	7. 50~59歳	9. ピークはない	合計
女性進出高	4.2%	25.4%	19.7%	16.9%	7.0%	0.0%	26.8%	100.0%
女性進出低	7.1%	20.0%	42.9%	5.7%	10.0%	1.4%	12.9%	100.0%
合計	5.7%	22.7%	31.2%	11.3%	8.5%	0.7%	19.9%	100.0%

女性進出因子の項目を高くつけた人は「ピークはない」と答えた割合が多く、低くつけた人は「19歳以下」と答える人が多かった。しかし、女性進出因子の項目を高くつけた人は、「ピークはない」の次に「20~24歳」が魅力のピークと思う人が多く、女性進出因子の項目を低くつけた人よりも割合が多く興味深い結果となった。

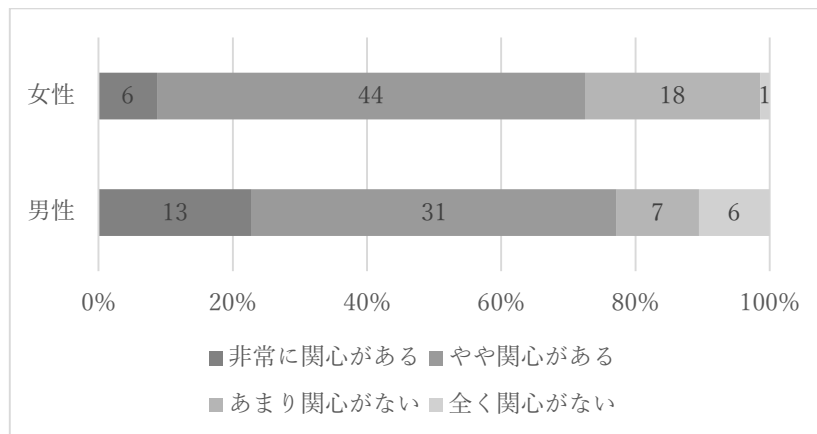
・社会問題（①人口減少問題②ハラスメント問題③所得格差問題）についての意識

人口減少問題・ハラスメント問題・所得格差問題の3つの社会問題の関心度について調査した。日本社会には色々な問題がある中、男女により差異が出てくるのではと仮定してこの3つをピックアップした。

①人口減少問題

・関心度

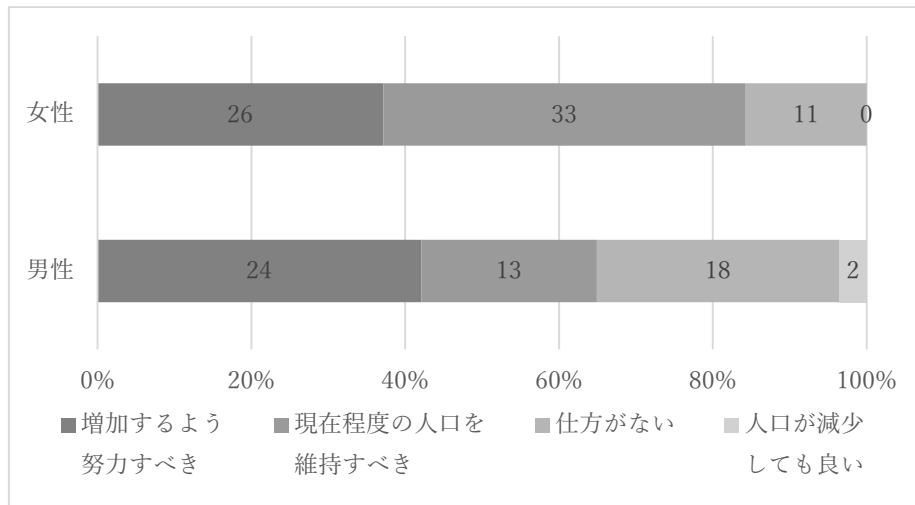
図表 21 人口減少問題の男女別関心度



人口減少問題について男性は「非常に興味がある」が13人、「やや興味がある」が31人と、関心があると考えているのは男性全体の中で77.2%という結果となった。対して女性は「非常に興味がある」が6人、「やや興味がある」が44人となり、男性の方が女性よりもやや人口減少問題について関心を持っている傾向があることがわかった。

・ 考え

図表 22 男女別人口減少についての考え（割合）

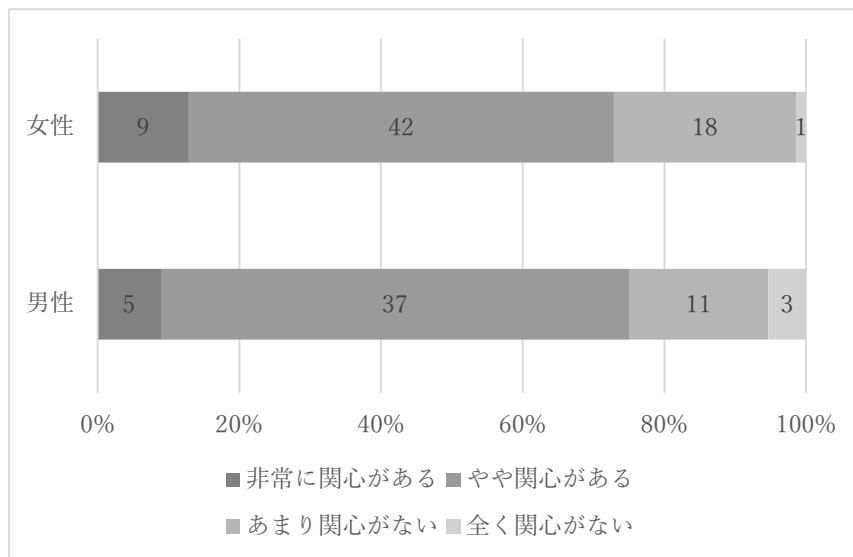


人口減少についての考えを、「増加するよう努力すべき」「現在程度の人口を維持すべき」「仕方がない」「人口が減少しても良い」という4段階で聞いた。努力すべきと答えた人ほど現在の日本社会に不満を感じていると仮定したところ、女性の方が不満を感じている結果となった。

②ハラスメント問題

・ 関心度

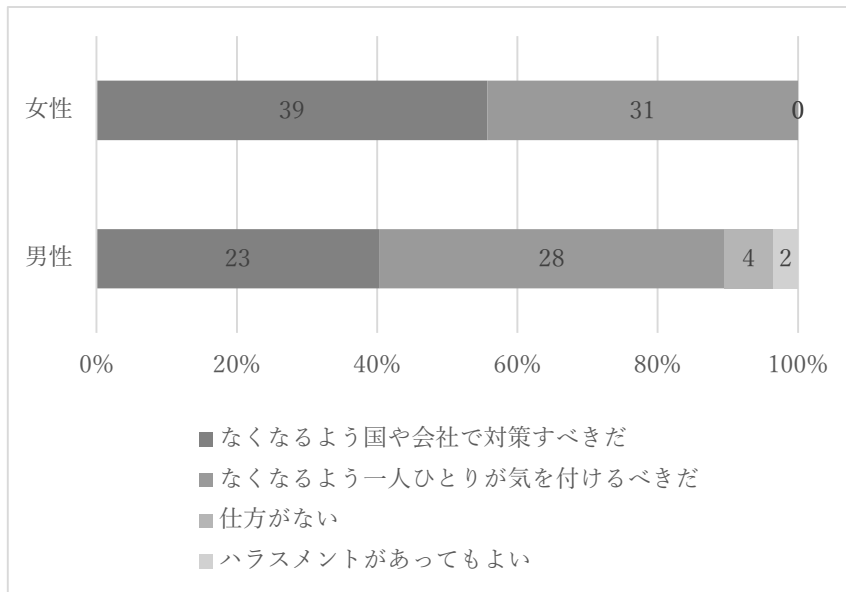
図表 23 ハラスメント問題の男女別関心度（割合）



ハラスメント問題の意識に関しては、男性と女性にあまり差異は感じられなかった。

・ 考え

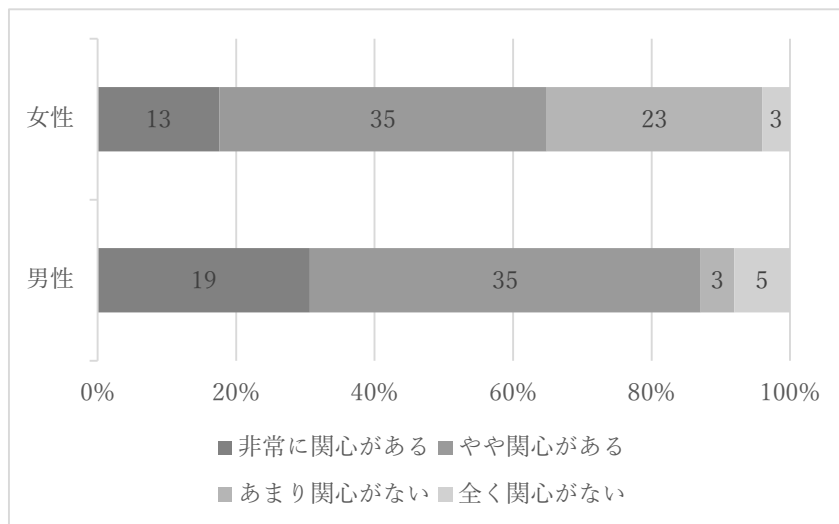
図表 24 男女別ハラスメント問題についての考え（割合）



ハラスメント問題についての考えを「なくなるよう国や会社で対策すべきだ」「なくなるよう一人ひとりが気を付けるべきだ」「仕方がない」「ハラスメントがあってもよい」の4つの選択肢で聞いた。女性の方がやや意識が高いが、男女ともに「なくなるよう国や会社で対策すべきだ」「なくなるよう一人ひとりが気を付けるべきだ」と答えた人がほとんどであった。

③所得格差問題

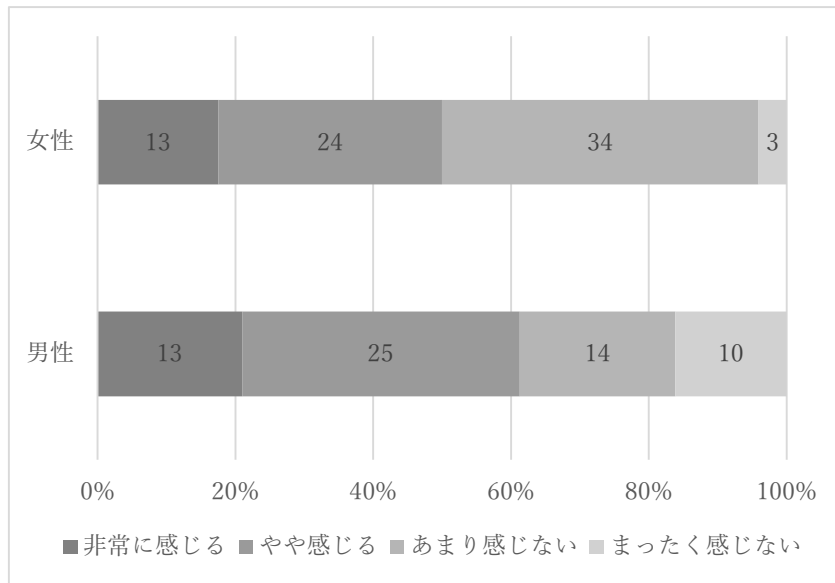
図表 25 男女別所得格差問題関心度のクロス集計表（割合）



男性は「非常に興味がある」が13人、「やや興味がある」が35人と男性全体の中では87.1%となった。女性は「非常に興味がある」が13人、「やや興味がある」が35人と女性全体の中では64.9%となり、男性の方が所得格差問題について興味があるという結果となった。

・ 所得格差を感じるか

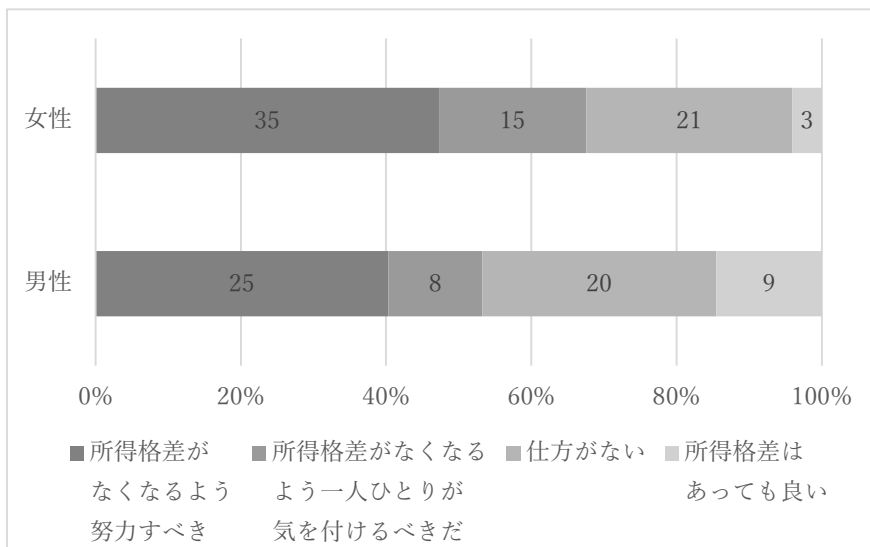
図表 26 所得格差の男女別意識（割合）



「あなたは現在、所得格差をどれほど感じますか」という質問では関心度と同様、女性よりも男性の方が所得格差を感じている割合が多いという結果となった。

・ 考え

図表 27 男女別所得格差問題についての考え（割合）



前の2つの質問とは反対に、所得格差問題についての考えは女性の方が「所得格差が無くなるよう努力すべき」「所得格差が無くなるよう一人ひとりが気を付けていくべきだ」と考える割合が多い結果となった。

男女ごとに差はあるが、全体的に社会問題への意識は高い結果となった。しかし、いざ魅力やピークを聴かれると年齢によって差が出たり、ピークを若く答えたりする人もいる。従って、社

会的な見方と実際自分が魅力と感じるのは別物として考える人が多いのではないか。

5 まとめ

本調査では男女間・年代間での魅力や価値観について調査してきた。本調査で予想外だったのは外見では20代女性で若々しさがあまり求められていない点だった。仮説では一番優位な差がみられると考えていたので、面白い結果であった。調査対象が大学生だったため、対象者の年齢が広がったらもしかしたらまた違う結果も出るのかもしれない。

社会状況が昔と変わり社会進出や恋愛対象など、「男」「女」で分ける価値観自体が古いものとなってきている。しかし、今まで染みついてきた価値観をいきなり捨てるのは難しい。この調査を何年か後に行ったらまた違ったデータが出る可能性もあるのではないかと考えた。

6 参考文献

- ・吉岡映理・桂田恵美子（2017）「大学生の性役割感・性役割性格特性とファッションについて」『関西学院大学心理学心理科学研究』43巻
- ・川名好裕（2011）「外見から推定される男性の魅力」『立正大学心理学研究所紀要』第9号
- ・川名好裕（2013）「外見から推定される女性の魅力」『立正大学心理学研究所紀要』第11号
- ・伊藤愛・伊藤裕子（2009）「女子学生における自己魅力意識と対人態度との関係—異性・同性・社会場面における比較—」文京学院大学人間学部研究紀要 vol11
- ・松田茂樹（2001）「性別役割分業と新・性別役割分業：仕事と家事の二重負担」『哲学』106巻
- ・鈴木淳子（1994）「平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）の作成」The Japanese Journal of Psychology vol.65